



有限会社魚仲代表取締役社長。九蔵町に構える「割烹魚仲」は、創業100年を超える老舗日本料理店。

寺嶋 友子さん



シャング株式会社代表取締役。1972年創業のイタリアンレストラン「シャング」は高崎パスタの歴史の礎を築いた、言わずと知れた代表店。

関崎 晴五さん

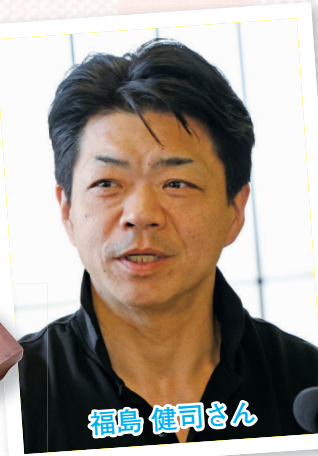


富岡 賢治市長

魅力的な飲食店を増やし、高崎をにぎわいのある街にしたいと考え、頑張る飲食店を応援する各種施策に取り組む。

飲食店とともに生み出す街のにぎわい 飲食店から街を元気に

有限会社HAPPY ISLAND代表取締役。1975年の「GGC」創業以来、人気を誇るステーキ・ハンバーグ専門店を県内に5店舗展開。



福島 健司さん

有限会社大金寿司代表取締役。群馬地域の冷水町に構える寿司・和食料理「喜の蔵」は、新鮮な海鮮を提供する人気店。



大澤 弘洸肆さん

長引くコロナ禍で外出する機会が減少する中、外食をきっかけに街のにぎわいを創出するため、令和3年度に実施した「高崎市おでかけ食事券」事業。全ての市民に2,000円分の食事券を配布し、数多くの利用がありました。今回は、飲食店の皆さんをお迎えして、食事券の効果や飲食業界の現状などについて伺います。



街のにぎわいを創出した 食事券の効果

市長 コロナ禍の状況の中で、何をやらなければいけないかと考えたときに、まずは高崎市内の仕事が減らさないことが一番だと考えました。それともう一つは、街に人がたくさん出ることです。外食を控える傾向にあったので、2000円分の食事券を市民の皆さんに配布して、街なかで食事をしてもらうことにしました。これは、コロナで大変苦しんでいる飲食店の皆さんにとってもプラスになるし、食事をきっかけに外へ出て買い物したりという、街に人が出る効果を生むからです。今日は、当時の食事券の利用の様子などを聞きたいと思います。飲食店の皆さんにお集まりいただきました。まず最初に、関崎さんのシャングは「パスタのまち高崎」の最も代表的なお店ですが、食事券の利用者は多かったですか。

関崎 多くの市民に利用していただき、ありがたかったです。お店のパート従業員の中には結婚を機に群馬に来た人もいて、「地元ではこんなことはやっていない」「高崎に来てよかった」と言われます。うちの店に限らず、本当に、外食産業が苦しんで

で落ち込んでいたときだったので、こういう取り組みを行っていただいたことは、外食産業で仕事をやる人間にとっては本当にありがたいと思いました。
市長 それはうれしそうですね。次に、福島さんのお店はステーキやハンバーグのお店ですが、お客さんは家族連れが多かったですか。
福島 はい。家族連れや、三世代のご家族で食事券を出し合っただけという使用される枚数が多かったんです。
市長 食事券だけでは足りなくて残りは現金で出す、というふうな人もいましたか。
福島 もちろん、そういうお客様もいました。食事券があるからこそ良いお肉を食べようということ、奮発して高いステーキを注文してくれるお客様もいました。
市長 それはうれしいですね。寺嶋さんのお店は料亭ですね。行きたいと思ってもなかなか行けなかった人も多いお店だと思いますが、利用はいかがでしたか。
寺嶋 初めて来店されるお客様や、食事券が使えるか電話で問い合わせをいただいてから来店される方が、2月はとても多かったですね。

のお店をみんなで応援していきたいと思っています。今回の食事券では、「話題のお店に行ってみよう」というきっかけになったようで良かったです。高崎市では、この他にも、「まちなか商店リニューアル助成事業」で、お店の内装や設備をリニューアルする際の助成も行っています。福島さんのお店では利用したことはありませんか？
福島 はい。今回か利用させていただきました。今回も申請していますが、非常に助かっています。
関崎 以前、私もまちなか商店リニューアルには本当お世話になりました。
寺嶋 うちのお店もこれまでに、トイレの改修などで2回利用させてもらいました。
市長 それは良かったです。大澤さんはどうですか？
大澤 うちの場合は、年配の人が多いため、バリアフリー化のために利用しました。
市長 内装や設備を改修して、お店をもっと魅力的にしたいという店は少なくありません。この助成は、これからも大事にしていきたいと思います。

市長 そうですか。名前は知っていても、これまでは敷居が高いと感じて行けなかった人も利用できたんでしょうね。
寺嶋 そうですね。食事券が2000円分あるから少し高いものを食べようという人や、ご家族でたくさん食事券を持って来るお客様も多かったんです。少しぜひたくに食事しようという。
市長 そういう話を聞くとうれしいですね。大澤さんのお店は、寿司と和食ですね。お客さんの反応はいかがでしたか。
大澤 うちが年配の人の利用が多いのですが、本当に皆さん喜んでいました。いつも来ているお客さんも、この食事券があることで、「ちょっと高いものを食べよう」とか、「もう一品頼もうかな」「久々にお酒も飲みたか」と言っていたりしました。コロナでお酒を飲む人はとても減っていましたし、原価もいろいろ上がっている中で、それが、食事券のおかげで、お店としては、より良いものを提供することができたと思います。

街の顔となる飲食店への 高崎市の支援

市長 市外から高崎に来た人にも足を運んでもらえるような飲食店が育つように、頑張ってい

から「こんなことをやりたい」「こんな支援がある」といいうようなことはありますか。
大澤 群馬は海なし県ですが、今は流通が良くなりました。うちのお店は鮮魚を漁港から直送してもらっているんで、品質の良いものが入ってきているんです。そういうところを皆さんにもっと知ってもらいたいです。
市長 そうですね。私もシェフの方から「高崎には海がないからこそ、食材だけに頼らない良い料理が提供されるお店ができる」と聞いたことがありますよ。
関崎 私は、これから街なかに出店したいという気持ちのある人にも新規出店の支援やチャンスがあると思います。
市長 高崎を食の街として売りたいですね。
福島 私は「お肉の祭典」という、お肉を取り扱う飲食店が集まるイベントの実行委員を務めています。このイベントも「キングオブパスタ」のように盛り上げていきたいと思います。
市長 実は、「パスタのまち」というのは、行政が発信したものではありません。関崎さんたちを始めとした飲食店や市民の皆さんがここまで頑張ってくれたもので、これはすごいことだと思います。

対談の様子を動画で
ご覧いただけます
QRコード
撮影しています

